

平成 30 年 8 月 31 日

平成 30 年度 東都大学野球秋季リーグ戦
監督会アグリーメント

選手の健康管理等を考慮して、今季リーグ戦では、下記の事項を監督会にて確認しました。

1. 竹バットの使用について

竹バット（接合バットも含む）の使用については、2 部～4 部リーグ戦の公式戦および 2 部 3 部・3 部 4 部入れ替え戦のみ使用可能とする。ただし、メーカーは全日本バット工業会のものとし、対戦相手校のマネージャー・審判委員が試合開始前に検査することとする。

2. 臨時代走について

臨時代走については、原則として認めない。ただし、打者が頭部に死球を受けた場合は、選手の意思に関係なく、臨時代走を送り、ベンチで手当てをすることとする。その際の臨時代走は、試合に出場している選手に限り、投手と捕手を除いた選手のうち打撃が完了した直後の者とする。なお、頭部に死球を受けた選手が試合に復帰するかどうかはチームの判断とする（必要に応じて、連盟が派遣する看護師の判断を仰ぐこととする）。

3. グラウンド内散水について

今年は、例年よりも非常に気温が高い日が多いため、試合前および 5 回終了後の整備以外にも散水を行う場合がある。なお、その際にも選手ならびに審判委員は、水分補給を行うこととする。

4. ロジンバックの使用について

ロジンバックについて、投手が特別な事由（多汗症等）で連盟指定のロジンバックが使用できない場合は、チームが審判委員にその旨を申告し、試合前に審判委員はチームが持参したロジンバックを検査して（異物が混入していないか）、そのロジンバックの使用を認める。

5. サングラスの使用について

サングラスの使用について、選手が特別な事由（目の炎症等）でサングラスを常時着用しなければならない場合は、チームから事務局へその旨を申告する。試合開始時の整列では、相手チームへ敬意を払うため、サングラスを着用しないで挨拶するように指導しているが、これら申告のあった選手は、常時着用したままで差し支えない。

一般財団法人 東都大学野球連盟